

(社)日本詩人クラブ 2020年 9月例会のお知らせ

— 創立70周年 現代詩東西南北 —

日時 2020年9月12日(土) 14時～17時

会費500円(会員・会友も)

会場 早稲田奉仕園 スコットホール

* 例会終了後、交流会を予定

詩朗読 & スピーチ

相沢正一郎氏 (東村山市)

渡辺みえこ氏 (相模原市)

大山いづみ氏 (日野市)

シンポジウム「現代詩 古往今来—ヨーロッパ詩とその受容」

神品芳夫氏

太田雅孝氏

川中子義勝氏

コーディネーター 佐相憲一氏

神品芳夫氏 (こうしなよしお) プロフィール

1931年東京生まれ。東京大学、明治大学でドイツ語ドイツ文学の研究教育に従事。元日本独文学会会長。編著『自然詩の系譜』により2005年日本詩人クラブ詩界賞受賞。2009～13年詩人クラブ監事、現在名誉会員。詩集『青山記』により2017年富田碎花賞受賞。詩誌「午前」(東京)、「4B」の同人。ほかに著書『リルケ、現代の吟遊詩人』(青土社)『ドイツ文学』(放送大学)『ドイツ詩史考』(小沢書店)、訳書にはゲーテ『若きヴェルターの悩み』リルケ『マルテの手記』ノサック『死神とのインタビュー』、編訳『リルケ詩集』『レルケ詩集』『ボプロフスキー詩集』など。

太田雅孝氏 (おおたまさたか) プロフィール

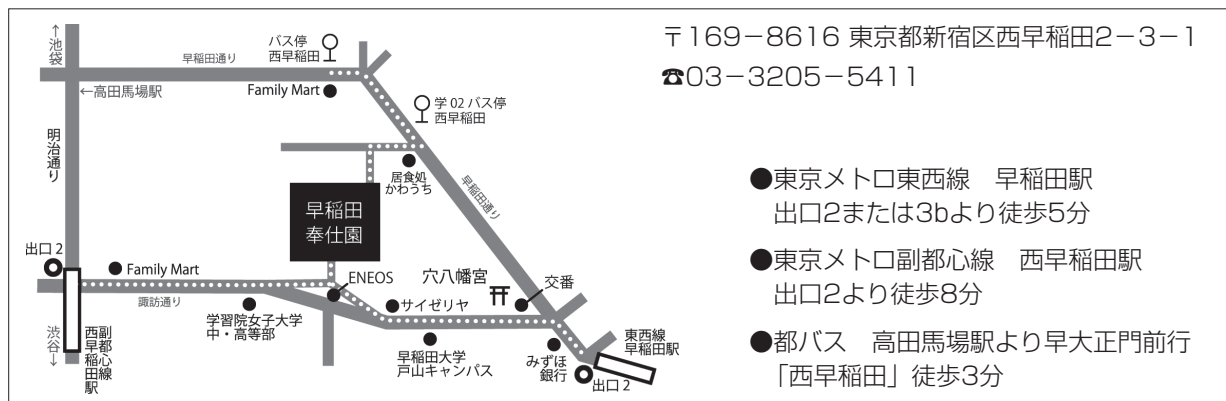
朝鮮戦争の最中に生まれる。空き家に入り浸ったり、中野駅前やミルクホールでのテレビ中継を観たりして育った。ケネディ大統領暗殺を日米初の衛星放送で知り、その後のベトナム戦争にショックを受ける。前後してビートルズの音楽と映画「ザ・サウンド・オブ・ミュージック」に感動し、安ギターで作詞作曲を始め、中学の終わり頃、詩を書き出す。浪人時代、文学書を濫読。小説を書こうとしたが、恩師の慫慂もあって詩の世界に向かう。英米の詩と文化を学び、シカゴ大やヨーク大に遊学。W・H・オーデンを専門に研究した。大東文化大学に就職し、十七世紀英文学会会長や日本詩人クラブの理事長を務めたこともある。

川中子義勝氏 (かわなごよしかつ) プロフィール

東京大学名誉教授。ドイツ文学・キリスト教思想史専攻。「詩は人類の母語」と唱えた思想家J・G・ハーマンの研究紹介によりA・v・ガリツィン賞受賞(ドイツ1998)。『北方の博士・ハーマン著作選』(翻訳と註2002)。他に『詩人イエスドイツ文学から見た聖書詩学・序説』(評論2010)、『神への問い—ドイツ詩における神義論的問いの由来と行方』(B・ガイェック著・翻訳2009)。詩作は高校の頃始めたが、纏めたのは比較的遅く、第1詩集は40歳頃。近年『魚の影 鳥の影』(2016)、『川中子義勝詩集』(新・日本現代詩文庫146)を上梓。絵本、エッセイも(『ミンナと人形遣い』2002『散策の小径』)。詩誌ERA編集発行。

佐相憲一氏 (さそうけんいち) プロフィール

日本詩人クラブ理事長



例会担当理事 谷口典子